

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の一員として地域の中で暮らしていることを認識して理念を作り、常に意識しながら実践につなげるように努めている。ホーム内に理念を掲げ、管理者も職員も常に確認しあい、月1回のスタッフ会議でも確認しあっている。	理念が目届きやすい廊下に掲示されている。管理者や職員は会議や申し送りの際に理念に触れ、その意義を理解し共有できるようにしており、実際に理念に沿ったケアを実践している。理念にそぐわない言動がみられた場合には管理者が注意を喚起している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方と挨拶を交わし、野菜をいただいたり、手作り菓子をさしあげたりの交流を日常的にしている。 また、保育園、小学校との交流も定期的に行ったり、ホームの主催の夏祭りは地域の方々も気軽に参加されている。	道を隔てて隣接する同じ法人の老人保健施設敷地内の公園などに散歩に出かけた折地域の方々と会話を交わし野菜などを頂いている。近くの保育の園児や小学生との交流もあり、小学生は年間同じ入居者と触れ合っている。楽器の演奏や朗読、紙芝居など多くのボランティアの来訪があり、体験学習や実習の場としても利用されている。ホーム主催の夏祭りや焼き芋大会の案内を地元地区に配布し、大勢の近隣の方に参加をいただき地域との繋がりが年々深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで委員の方に提起し、地域で民生委員の相談にのっている。また、地域の介護者の集いでは講師を務めており、今後もさらに地域での集会などにも出席できるように働きかけたい。実習生の受入れもしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの活動報告や話し合いを活発に行っており、地域の要望を法人へつなげている。各委員からそれぞれの立場で質問や意見をもらい、サービス向上に活かしている。また、会議での意見をスタッフ会議等で報告し、私達に出来ることは何か話し合っている。	昨年度の目標達成計画の課題でもあったホーム独自の運営推進会議が行われ、地区消防団長等の参加を得ている。ホーム側から月ごとの詳細な「項目別活動報告書」が会議に提出されるため出席者から感想や意見が活発に出され、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員の中に市介護保険課担当者や包括の担当者も出席しており、相談したり、実情を伝えたりしながら協力関係を築いている。市の窓口にも電話で相談したりしている。	運営推進会議での話し合いの報告や期限が切れても介護保険証が届かないなどの相談を気軽にしている。介護相談員も月1回来訪しており、入居者の話しを聞きホーム職員もその話の内容を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間と職員の目が行き届かない時間帯のみで基本は開錠しており利用者が外出しそうな時は一緒に外に出たりして安全面に配慮しながら身体拘束をしないケアに取り組んでおり、自由な暮らしを支援している。また、マニュアルを参照し読み合わせを行い理解に努めている。	話し合いを通じて全職員が拘束について正しく理解している。入居者が車椅子から立ち上がって歩くことがあり、リスク回避のため「待ってえー」などと突然出る言葉に拘束を感じるなどが過去にあったので職員間で対応策を検討した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議の時、日頃のケアのやり方で気づいたことなどを話し合い、不適切なケアをしていないか確認しあい、高齢者虐待防止関連法についても理解に努めている。		

グループホームコスモスさいなみ・1階

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は入居希望者で成年後見制度が必要と思われる方や家族に対し、出来る限りの支援や説明をしており、職員が外部研修に参加し内部研修にて伝達講習をしているが今後さらに学ぶ機会を増やしたい。グループホーム連絡協議会などで勉強会があり、参加している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対しては入所時の契約で詳細に説明している。今年5月に家賃の値上げがあり家族会での説明・同意、文書にて通知している。年1回以上家族会を開催して、会の中で確認している。利用者には、日常的に関わりの中で理解してもらっている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を表出できるような雰囲気作りのため家族とのコミュニケーションを大切にし、事業所の出入り口にご意見箱を設置、入居の時にはその説明もしている。また、家族会、面会時や電話などで苦情や要望を常に伺うようにしている。あんしん相談員・職員が定期的に利用者から聞き取りを行っている。苦情受付簿を作成し、再発防止に努めている。	遠方に住む家族の場合に3ヶ月に1回程度の来訪となるがお互い気軽に意見・要望が言えるよう雰囲気づくりに心がけている。職員は入居者1~2名を担当しており、毎月の生活の記録を請求書と一緒に発送している。入居者全員のスナップ写真が載る「さいなみだより」を二ヶ月に一度家族に配布しコミュニケーションの円滑化を図っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のスタッフ会議において、自由に意見を出し合う環境づくりに努めている。また、昼休み等、個別に面談し要望や悩みを聞くようにしている。	スタッフ会議の他にも必要に応じて会議を開催している。会議も夜勤明けの朝や昼休みの時間帯、自宅が遠方の職員の通勤時間に合わせたりと参加し易い環境づくりに配慮がされている。朝・夕の引継ぎも漏れのないよう職員が必ず出席しており、意見や要望を聞く機会が多い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績など、機会あるごとに管理者に報告し、向上心を持って働けるよう心がけている。疲労やストレス、職員間の人間関係にも話を聞いたり、勤務者の調整などで配慮している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修はなるべく参加できるようにしている。研修報告を全員で閲覧している。新人職員には、その職員の力量を把握し、ケアの技術面、業務面、利用者の関わり方など、日常勤務の中できめ細かく指導している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺ネット連絡協議会が2ヶ月に1度あり、情報交換や勉強会、研修会など開催していて、質の向上に取り組んでいる。また、管理者が善光寺ネット連絡会の役員になり昨年以上に研修会などに参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で生活状態や生活暦を把握し、家族や施設職員、ケアマネなどから情報収集して、本人の求めていることや不安を理解するようにしている。入居前お茶飲みなど馴染めるような環境作りをしている。また、職員は本人に受け入れられるよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と良く話し合い、不安な事、困っている事を聞いている。家族が悩みを話せるような雰囲気、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いや状況を確認して何度も相談を繰り返す中で、担当ケアマネとも連絡をとりながら必要な支援を見極めてサービスにつなげている。 施設内の3グループホーム、老健とも連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意分野を十分に発揮できるよう、料理・季節の行事など昔からの慣わし等教わりながら生活を共にし、そして一緒に笑い、悩み、泣き、苦しみや不安、また楽しみを分かち合う生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子を電話や生活記録などで随時家族に報告しながら共に支えていく関係作りをしている。家族と過ごす時間を持ち協力して頂けるようケアプランに盛り込んでいる。(外泊・外出など)また、ご家族が得意なことを活かして、演奏会などでボランティアをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお正月の帰省、買物や馴染みの美容室、墓参りなど出来るように支援している。また本人の馴染みの場所へ職員と同行したり馴染みの人が面会に来られるよう、家族にお願いしている。以前利用していたデイケアに遊びに行ったりしている。	入居前の近所の友達や親戚、職場の後輩からの電話には「声を聞くと嬉しい」の言葉も聞かれるように入居前からの関係を継続している。お盆やお正月の帰省、お墓参りには「お母さんがいないとお正月が来ない」との家族の言葉も聞かれ、年中行事や大切な記念日等に馴染みの人や場所に関われるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で築いた人間関係を尊重し仲の良い利用者同士席を近くにしたり配慮しているが、相性や認知レベルの違いで孤立する入居者もあり、職員が常に気を配り調整役になって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方へは時々面会に行ったり、家族にお会いした時や電話等で様子を聞いている。関係先へは生活状況等、情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の思いを聞き取れるようにし、希望や意向を把握できるよう努めている。困難な場合は家族から話を聞いたり、ケアスタッフが生活パターンなどの把握に努め本人本位に考え検討している。	ほぼ半数の入居者が思いや希望、意向を表すことが出来る。表出が難しい方については日頃の行動や生活歴から判断し職員間で話し合い、問いかけの言葉を選び、一人ひとりが思いを伝えやすいようにしている。日頃発する「つぶやき」なども大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族も含め面談したり、訪問調査にて情報収集している。家族に生活歴を書いて頂いたり、聞き取り調査を行っている。本人との日常の会話で生活環境を聞いたり把握に努めている。(センター方式も使用)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握し、本人の意思を尊重し無理せず出来ることを行っている。また、本人が発する言葉や態度で気づいたことをケア記録に記入して職員が共有しケアに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当が中心になってアセスメント家族の意向・入居者の意向も出来る限り反映させたケアプランを職員全員で話し合い作成している。	職員は1~2名の入居者を担当している。担当職員が入居者からの希望等を「聞き取りシート」に記入し、ケア会議に持ち寄り検討し、計画作成者により介護計画が作成されている。3ヶ月ごとに評価・見直しも行っており、状態の変化にも即対応し変えている。計画変更時にはその都度家族の承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録には生活の中で発した言葉や様子などを記録し、勤務開始前に確認をしている。また、朝のミーティング、申し送りノート、ホワイトボードを活用し情報を共有しながらケアやケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門外来受診時など家族の対応が困難な時は職員が付き添い、病状説明している。また、リフト車など必要な時はデイケアより借り送迎している。		

グループホームコスモスさいなみ・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練時には地元の消防団や消防署の職員に来て頂いている。また、運営推進会議に地域包括の職員、民生委員、消防団長に参加して頂き、地域の情報を得、協力関係を築いている。多くのボランティアさんにも訪問してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの希望に応じ、かかりつけ医の受診の支援を行っている。主治医が専門医受診が必要と認めた時には家族に相談し、同行が困難な時は職員が通院の同行している。	本人や家族の意向で法人の医療機関の医師がかかりつけ医となっている。月に2回の往診があり健康管理に心がけている。本人・家族が希望する専門医で受診したい時はかかりつけ医が紹介状を書き、専門医からは結果がかかりつけ医に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看との契約に基づき、週一回の訪問により日頃の健康管理や医療面での相談、助言、対応を行ってもらっている。体調や些細な表情の変化を見逃さないように早期発見に取り組んでいる。緊急時は24時間対応できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は見舞いに行っている。また早期退院に向けて病院関係者との情報交換や相談に努めている。過去に入院された方は早期退院され今も元気にホームの生活が継続されている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化の指針」を作成し、家族に説明し同意を得ている。重度化になった際は家族・医師・看護師・職員と入居者の今後について十分に話し合いを行っている。本人にも機会があるごとに意向を聞いている。	指針がありターミナルについては職員間で話し合いが行われている。法人内に老人保健施設、入院可能な医療機関もあるので、本人、家族、かかりつけ医、管理者、職員間で充分な話し合いを行ない対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師による緊急対応の講習会・訪問看護師による応急手当講習会を年一回受けている。また、職員の中に救急救命の研修会に出席し伝達講習をしている。急変時のマニュアルを作成し全員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の昼夜間想定消防訓練を行っている。消防署と地元消防団の協力を得て通報・避難・誘導訓練消火器使用の消化訓練を行っている。又、災害時の講習も消防署員を講師に迎え行った。3月14日の消防訓練では地域の方にも参加して頂き利用者の顔を知って頂いた。	年2回昼夜想定消防訓練が消防署、地元消防団などの協力でされている。地区の方の参加も今年初めてあり、課題であった地区消防団長の運営推進会議への参加も実現し、災害についての貴重な意見もいただいている。スプリンクラーも今年度中に設置される予定である。入居者の各居室には煙・熱探知器が設置されている。	夜間を想定しての避難訓練も行われたが、夜勤者の立場での避難誘導、救出方法等について話し合われることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時まず本人の気持ちを考えてさり気ないケアを心がけたり、本人の自己決定できる声がけに気をつけている。	入居者の立場になって不愉快な思いをしないよう職員間で言葉遣いや対応について話し合い、人生の先輩として一人ひとりを尊重し支援している。トイレ誘導なども小声で行っており、さりげない配慮が随所に見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて、本人の気持ちを大切に、答えの出しやすい声がけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の本人の状態や気持ちを尊重し個別の援助を行っている。散歩やレクリエーション、休憩は個々に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選ぶことができる人は本人が洋服を選んでいるが、季節に合わない洋服のときはアドバイスをしている。意思決定が困難な方には職員が本人に聞いて選び着用してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞いてメニューに取り入れている。調理・盛り付け・片付けなど職員と入居者が共に行い職員と入居者一緒に食事をしている。	訪問調査当日の昼食は、誕生日の入居者の希望メニューとしてのすき焼きであった。調理や片付けなど入居者が持てる力を十分に発揮し、職員もテーブルと一緒に会話のはずむ美味しい昼食であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス・水分量を個別に取れるよう支援している。水分量の少ない人には声がけや内容を工夫し提供している。栄養士に定期的にアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフ全員が口腔ケアの重要性を認識しており口腔状態や力量に合わせ個別に口腔ケアをしている。義歯利用者は週一回洗浄剤を使用し清潔を保っている。		

グループホームコスモスさいなみ・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の状態に合せ夏場は布パンツを使用したりトイレの声かけの工夫で排泄の支援をしている。生活のリズムの中の区切りでトイレの声かけを個々に行っている。また、排泄チェック表を使用し尿意のない利用者には時間を見計らって誘導している。	ほぼ三分の一の方が自立しているが安心のためにパットを使用することもある。介助が必要な場合には排泄チェック表を使い入居者のパターンに応じて声かけをしている。夏場は日中布パンツをするよう心がけている。夜間ポータブルトイレを使用する方でも転倒の危険性がある場合には時間を見計らって誘導することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、食事も乳製品や野菜、食物繊維類、水分を多く摂ったり、適度な運動や散歩したりと便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせて、一人入浴や介助をしている。自立している方は仲間でゆっくりおしゃべりしたり歌ったり楽しんで入浴している。	週3回を基本としているが1階、2階それぞれ入浴日が異なるので希望があればいつでも入浴できる。大きめのお風呂なので3人位でおしゃべりを楽しみながら入浴している。季節の菖蒲湯、ゆず湯等も行われる。日帰りで家族と一緒に近くの温泉に出かける入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を増やしたり、夜勤者が個々の状態に合わせて休む前に寝具を整えたり更衣困難な方にはパジャマ更衣の介助しゆっくり休んで頂いている。また、寝付けない方には暖かい飲み物を提供したり、心休まるよう傍らでゆっくり話をしたり配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し職員が入居者一人ひとりの内服している薬を把握できるようにしている。服薬時には手渡しし、内服の確認も行っている。処方の変更があった時には申し送り周知状態観察をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理・裁縫・編物・畑仕事などの得意分野で力を発揮できるように場面作りをしている。季節の行事を企画し参加して頂いている。外出の希望でドライブ、散歩の途中でプチカフェに寄りコーヒーを楽しむ等支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの公園へ散歩に、また利用者の希望に応じてドライブ、外出に行っている。また家族の協力を得て外出、帰宅、温泉等へ行っている。	入居者の希望に合わせて、天気の良い日には近くの公園に能力や運動量を考え出かけている。公園で手づくりお弁当を開いたり、法人が運営するプチカフェでコーヒーなどを楽しむこともある。花見、紅葉狩りなど行事外出も気軽に行なわれている。希望による軽衣料や身の回り品の買い物、ホームの食材の買出し等に職員と一緒に外出することもある。	

グループホームコスモスさいなみ・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は事業所で行っているが買物に行った際は自分でお金を支払って頂けるようにお金を手渡しするなどしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を作成し家族へ送っている。家族から本人へ電話が来た際には居室にて話してもらったり、本人の希望で電話したいときには支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房や湿度には常に気を使って温度変化や乾燥に気を配っている。加湿は洗濯物をフロアーに干したり加湿器を使用し調整している。入居者と一緒に畑や散歩中で摘んだ季節の花々を飾っている。また、冬にはおこたつを作っている。	食堂兼居間には季節の野の花が飾られ、鈴虫の音が響いていた。アイドル犬のチャチャも名前を呼ばれると入居者に擦り寄っていく。昼食の用意をする入居者がいる傍ら、その脇でテレビを見たり居眠りしながら料理が揃うのを待つ方も見られた。自宅の延長のような生活の臭いが漂う中、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの近くや廊下、玄関先にソファやベンチを置き一人で過ごしたり、仲の良い人同士で話ができる空間作りをしている。フロアーには生活の中の様子が解る写真や作品を飾り会話が弾むように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた寝具やタンスなど持ち込む事によって居心地良く過ごしてもらえようように家族に説明し配慮して頂いている。居室に家族の写真やカレンダーを飾ったりしている。また、仏壇を持ち込まれている方もおり居心地よく過ごせる工夫をしている。	各居室はそれぞれ壁紙の色や窓の形が違い、個性に合った「私の部屋」的な造作になっている。仏壇のある居室、家族の写真を飾った居室、あっさりとした居間と個々の性格や生活ぶりを窺わせる心地良い環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札を貼って迷わないように工夫したり、トイレや浴室などわかりやすい表示をしている。自立して生活が出来るように物の配置には気を配っている。		